

# 青山大人(あおやまやまと) 県議会報告 かわら版33号



★平成 23 年 6 月 1 8 日 発行

活動ブログも日々更新中！！

発行 青山大人事務所 土浦市乙戸 801-2 電話 029-828-7011 FAX 029-828-7012

E-mail [info@aoyamayamato.net](mailto:info@aoyamayamato.net) HP <http://www.aoyamayamato.net/>

～青山大人(あおやま やまと)の略歴～1979年土浦市生まれ。現在32歳。荒川沖小、土浦三中(陸上部主将)、土浦一高、慶応義塾大学経済学部卒。2006年12月に県議会議員初当選。2010年12月の県議会議員選挙にて2期目当選。08年1月に第21回日米青年政治指導者交流プログラム日本代表団に選抜される。街の活性化のため映画のロケ地を誘致するなど議会以外でも精力的な活動を展開。現在、茨城県議会総務企画委員会委員、東日本大震災復興・元氣ないばらきづくり調査特別委員、土浦消防団第27分団員(H20・21・23年ポンプ車操法大会選手)。

## ●6月議会異例の1500億円補正

東日本大震災復興のため、茨城県議会6月議会では異例の1500億円余の補正予算が計上されました。主なものとして、災害対応公共事業834億円、災害関連融資等207億円、雇用創出等事業46億円、災害救助等関係経費27億円などです。もちろんこれは国の第一次補正予算を受けてのものがほとんどですが、まだまだ財源が足りません。国のほうで、早急に第二次補正予算を組んでいただきたいです。

## ●総務企画委員会において

青山大人は総務企画委員会、情報委員会、東日本大震災復興・元氣ないばらきづくり調査特別委員会に3委員会に所属しております。総務企画委員会における議論の様子を簡単にまとめました。なお、一部の質問は翌日の茨城新聞にも掲載されました。

### ①茨城放送の支援等について。

・3月11日に発生した東日本大震災の直後から、非常災害放送に切り替え、約2週間にわたり24時間体制で被災状況等の情報発信を続けた茨城放送のラジオに救われた県民の方も多と思う。ただ、茨城放送としてもともと経営が厳しい中、通常の番組編成を変更しての放送。広告収入も減少している。(震災の影響による3月分だけで約900万円とのこと)県として今後の支援策は。

(県の答弁)現在、県と茨城放送で提携している災害協定について、今回の震災を踏まえ今後、見直しをしていく。

### ②県内企業に対するフォローアップについて。

・企業では夏の節電対策として、曜日の関係ない勤務携帯をとる工場も増えると思う。小さなお子さんを預ける保育所、託児所などを行政として支援する対策はできないか。

(県の答弁)企業のニーズを聞き、市町村と連携して対策できないか検討してみる。

### ③県内鉄道事業者の被害状況について。

・鉄道施設復旧費用への国の補助のかさ上げは実現できそうか。さらに、今回の震災で平成25年度予定の常磐線の東京駅乗り入れ時期に影響が出ることはあるのか。  
→(答弁)常磐線の東京駅乗り入れ時期について今のところ影響は出ることはないと思込まれる。

### ④地上デジタル放送移行への対応について。

7月末で終わるアナログ放送。福島、宮城、岩手の被災地三県は延期されることになった。茨城県の移行状況、そして万が一テレビを見れない世帯がでてしまうことはないのか。(この質問が昨日の茨城新聞に取り上げられました)

→(答弁)県では現在98%が地デジ対応。残りの世帯については7月24日までに間に合う予定。仮に間に合わない場合でも暫定衛星放送を受信することで対応。

詳細については、後日茨城県議会のHPへアップされると思います。

## ●その他県議会の議論の主な内容

当然のことですが、6月議会のほとんどは震災に関するものでした。一般質問では議員から全体で54項目の質問があり、その内約30項目が東日本大震災に関するものでした。知事や関係部長の答弁のうちいくつかを上げると、

・今後、災害拠点病院と救命救急センターの連携を強化していく。

・津波被害や原子力事故など複合的な災害にも迅速、的確に対応できるよう年度内に県の防災計画を見直す。

・定期検査中の東海村にある日本原子力発電東海第二原発の運転再開については、専門家による技術的な検証が必要。地震や津波の専門家らで構成する県の原子力安全対策委員会を開催する。

・緊急時の備蓄体制について、分散化、供給提携先や備蓄量を増やしていく、都道府県間の連携を進める。

・大きな被害を受けた茨城港日立港区の一部岸壁を耐震強化岸壁として整備する方向で国と協議を始めている。